

製品名: MAGE 1 (12F10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe13588**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:20-1:50,FC 1:20-1:50
分子量	34kDa

抗原情報

遺伝子名	MAGEA1
別名	CT1.1; MAGE1; MAGE1A; MAGEA1;
遺伝子 ID	4100.0
SwissProt ID	P43355
免疫原	ヒト MAGE1 の合成ペプチド

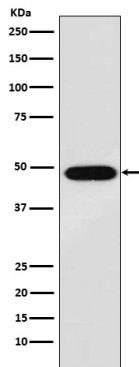
背景

SNW1 との相互作用およびヒストン脱アセチル化酵素 HDAC1 のリクルートを介して転写調節に関与している可能性がある。ノッチ細胞内ドメイン (NICD) の転写活性化を阻害する可能性がある。胚発生および腫瘍の形質転換、あるいは腫瘍進行の側面において役割を果たす可能性がある。SNW1 との相互作用およびヒストン脱アセチル化酵素 HDAC1 のリクルートを介して転写調節に関与している可能性がある。ノッチ細胞内ドメイン (NICD) の転写活性化を阻害する可能性がある。胚発生および腫瘍の形質転換、あるいは腫瘍進行の側面において役割を果たす可能性がある。自己細胞傷害性 T リンパ球によって黒色腫上で認識される抗原。

研究分野

-

画像データ



A375 細胞溶解物中の MAGI 1 発現のウェスタン ブロット分析。